熊本市緑の基本計画改定委員会

第１回委員会の意見概要

１、計画策定の趣旨

〇長期的視点をもった計画にしてはどうか。そのため、今後の見直し時期を示してはどうか。また、環境変化等に対応して計画が見直せるようにしてはどうか。全国都市緑化くまもとフェアと連動して息の長い活動が必要である。

〇現行計画よりも一層、気候変動、大規模災害、都市整備に対する方策、公園の再生・活性化、SDGs、グリーンインフラ、景観まちづくり、公民連携（市民参加）、生物多様性等を意識してはどうか。

〇ＥＢＰ（根拠に基づく実践・政策）として緑の政策を進めるガイドラインになるようにしてはどうか。

〇市として「改定において何を大切にしたいのか」,「何を新しくしたいのか」という意思や方針を明確化すべきである。今回の改定は，現行計画の基本的な枠組みを維持する「部分改定」なのか，それとも「全面改定」まで踏み込むか。

２．緑の役割

〇自然がもたらしてくれる緑の多面的な機能、効用は計り知れないものがある。「緑」は単独で存在しておらず、多種多様な要素と共生している。

〇気候緩和、防災、生物多様性、観光といった役割を盛り込むことが必要である。「緑」という存在の意義を抽出することによって、具体的な「目的」を浮かびあがらせていくことが求められるのではないか。

３熊本市の緑の現状と課題について

〇緑被率も公園面積、公園の整備率も増加しているのに「街なかに緑が多いと感じる市民の割合」が下がっている。これは緑被率や公園整備が街なかの周縁部で中心的に行われてきたということなのか。熊本地震の影響なのか。市民の印象、感覚の問題なのか。目に見える変化があれば増減の感じ方なのか。住宅地や太陽光パネルの設置場等の増加、街路樹撤去や植樹帯のコンクリ-ト化等も想像される。「実感できる緑」を切にするのならば，このあたりの分析をきちんとする必要がある。

４．計画推進のための施策

〇現計画をどのように使ってすすめてきたのかを整理することが必要である。

〇施策については、「問題点を改善する」という視点だけではなく、熊本市ならではの「うまくいったところ」、「強み」、「良い点」を伸ばすという考え方も示してはどうか。

〇関係法令等の改定をできるだけ利用する。緑地・緑化の拡大解釈や過度の規制緩和に充分留意する。

５．市民意識について

○アンケート調査は、緑のイベントに来られている関心の高い人だけでなく、広くいろいろな人も対象にしてはどうか。一般市民へのアンケート調査が予定されているが，新計画では，「市民協働」を強化する方向であると思われるので，市民活動を行っている団体にもアンケート等を行って意見を反映させる必要があるのではないか。

○「市民ニーズ」とは，具体的には何か。また，どのようなギャップがあるのか。アンケートで市民からの意見をいただくにしても，事前にもう少し詳細な検討と議論が必要と思う。

６．基本理念・計画テーマ

○基本理念を検討する必要がある。

○都市緑化フェアで提言するテーマ・方法を勘案して、街中の緑化事業を策定する。

７．緑の将来像

○熊本は、森の都くまもと、といわれている。目指す「森の都」の姿を分かりやすく「みえる化」することが必要である。

○基本方針を踏まえて施策を展開していけば、どのような「まちづくり」へとつながるのか，どのような「新しい生活」が待っているのかを示してはどうか。将来の「まちや生活」を実現するためにこんな緑が必要であるというようなアプローチの仕方もある。

○「まちづくりや生活」と「緑や緑施策」との「つながり」を、市民目線で示せれば，よりよいものになると思う。

○施策については、「問題点を改善する」という視点だけではなく，「熊本市ならでは」の「うまくいったところ」や熊本市の緑の「強み」、「良い点を伸ばす」という考え方も示してはどうか。

８．基本方針

○基本方針は、20 年後に見直す、改定することでいいのではないか。

９．目標

○目標値は、一般市民や、市民活動主体にわかりやすく、かつ、達成が実感できる「目標の設定」が必要である。数値化した指標、緑化施策の可視化が必要ではないか。

○目標は、10～30 年といった長期のもの、1～5 年といった比較的短期なもので分けてはどうか。大人で５～10 年、子供（小学生）で１～３年間で実感できる目標（指標）を設定してはどうか。

１０．具体的な施策

（緑化、緑の保全）

○公共公益施設の緑化に、「森の都」の役割の一つとして「グリーンインフラの活用」を明記する。

○生物多様性地域戦略を踏まえ、生物多様性の意義、保全に関する基本方策を踏み込んで具体的に盛り込む。

（公園、市街地の緑）

○市民の憩いの場、市街地の緑が必要ではないか。

○民間事業者を活用した「緑の中の賑わいづくり」、都市公園の再生・活性化が必要ではないか。

○（高齢社会等の）都市の変容への対応が必要ではないか。

（景観等）

〇個性的で素晴らしい、美的感覚のみならず精神的にも癒される地域に溶け込んだ緑の自主的な緑化の奨励、推進により、緑の「見せ方」「演出」を考慮した景観まちづくり、文化的景観が必要でではないか。また、水ブランド等を観光資源にも使える。

〇水と土、緑、そして人を一体として考える「グリーンインフラ』を街中にも浸透させ、「みどりの力」を活用すべきである。

〇SDGｓを含む持続可能な景観まちづくりの展開

（市民協働、啓発）

〇緑の多面的な機能や効用（「みどりの力」）を市民協働で街づくりに生かさなければならない。市民参加を前提とした協働により公民連携を推進する。

〇パートナーシップ型での緑化推進モデルとして、公園管理の在り方（地域の負担軽減と外部リソースの獲得、協働型の公園管理モデル）について、持続発展的な現野で取組んではどうか。公園の維持管理は、愛護会が活発に活動しているが、その高齢化が課題として指摘されている。

〇市民、事業者との協働を考えると、単に「保全しましょう」だけでは人は動かないことから、緑を守るだけでなく、触れ合ったり、遊んだりして価値を見出していくことを大きく打ち出すことで、保全意識を醸成させてはどうか。「協働」は、地域住民への押しつけとならないように配慮していただきたい。緑の啓発は、市民、事業者、行政が平等な対象のものとしていただきたい。

〇新しい「森の都」づくりの後継者育成は、長期戦略として非常に重要である。次代を担う子どもたちが「緑の力」を認識し、主体的な取り組みを展開できるような施策（学校緑化コンクール等）を充実させてはどうか。多大な教育効果がある。また、緑の啓発や緑の保全を担う人材育成は、元々緑に興味のある人向けのイメージがあることから、今後、何かの契機で緑に興味を持つ人や、今も緑に関心はあるけれど参加できていない人向けのプログラムもあればよりいいのではないか。

〇具体的な（将来の）姿を市民や事業者のみならず、市職員にも浸透させていくことが大切と考える。

（防災減災）

〇都市公園等の整備は、緑地保全.活用の視点に加えて、防災・減災の役割を考慮する。そのため、関連する防災計画や地域での取組とのマッチング（一時的な避難エリアとしての公園機能のさらなる強化）の促進。また、既存の防災機能についてイベント利用等での発信強化など。熊本地震の学びを反映させる。

〇ECO-DRR（生態系を活用した防災・減災）の活用

１１．進捗管理

〇緑被率の減少などに対して本計画がしっかりと機能するように、庁内連絡会議でも内容を浸透させる。

〇緑の基本計画は、検証の充実、具体的な進捗管理の方法などにより、ＰＤＣＡサイクルが機能するように、しっかり組み込む

１２．その他

〇「上質な緑」がわかりにくい。「上等な」、「高級な」、「高価な」と誤解されないか心配である。「質の高い緑」、「豊かで潤いのある緑」、「良好」といった表現にしてはどうか。もしくは、「上質

な緑」の意味の説明をしてはどうか。
○「街なかの緑」とは、熊本市の中心部分のことか、それとも住宅地全体のことでしょうかがわかりにくい。